

第3章

地方プログラム

1. 地方プログラムについて

参加青年は10月1日（土）～10月9日（日）、3グループに分かれて地方プログラムに参加した。ドミニカ共和国とオーストリア共和国の青年は和歌山県と富山県、リトアニア共和国とパプアニューギニア独立国の青年は島根県と香川県、ラオス人民民主共和国とバーレーン王国の青年は函館市と大阪府を訪問した。和歌山県、島根県、函館市では、地元青年とのディスカッション・プログラムに参加し、富山県、香川県、大阪府ではホームステイを体験した。

訪問府県市名	国名
和歌山県、富山県	ドミニカ共和国、オーストリア共和国
島根県、香川県	リトアニア共和国、パプアニューギニア独立国
函館市、大阪府	ラオス人民民主共和国、バーレーン王国

2. 和歌山県

月 日	時 間	活動内容					
10月1日（土）	9:00	羽田空港出発 SFJ-021便					
	10:25	関西国際空港到着					
	12:20	昼食					
	14:00	有田川町到着					
	14:30	オリエンテーション、開会式、地元参加青年顔合わせ（きびドーム） 3コースに分かれて視察					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>環境コース</th> <th>教育コース</th> <th>文化コース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>みかん園と風力発電施設等の視察 ディスカッション(場所:ハーブ+)</td> <td>図書館視察 (ALEC) ディスカッション(場所: ALEC)</td> <td>日本文化体験 (茶道等) ディスカッション(場所: THIRDCAFE)</td> </tr> </tbody> </table>	環境コース	教育コース	文化コース	みかん園と風力発電施設等の視察 ディスカッション(場所:ハーブ+)	図書館視察 (ALEC) ディスカッション(場所: ALEC)
環境コース	教育コース	文化コース					
みかん園と風力発電施設等の視察 ディスカッション(場所:ハーブ+)	図書館視察 (ALEC) ディスカッション(場所: ALEC)	日本文化体験 (茶道等) ディスカッション(場所: THIRDCAFE)					
17:30	文化交流会 *パフォーマンス *受入側代表挨拶						
10月2日（日）	9:30	2班に分かれて視察					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>1班</th> <th>2班</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あらぎ島とその周辺（文化的景観） 紙すき体験</td> <td>紙すき体験 あらぎ島とその周辺（文化的景観）</td> </tr> </tbody> </table>	1班	2班	あらぎ島とその周辺（文化的景観） 紙すき体験	紙すき体験 あらぎ島とその周辺（文化的景観）	
		1班	2班				
	あらぎ島とその周辺（文化的景観） 紙すき体験	紙すき体験 あらぎ島とその周辺（文化的景観）					
	昼食 ディスカッション まとめ 成果発表						
16:00	ホテル到着						
18:00	夕食						

10月3日（月）	9:00～17:00	地域視察・体験活動 *高野山等
	17:00	宿泊所着 夕食
10月4日（火）	10:00	和歌山県庁表敬訪問 *県代表挨拶 *ドミニカ共和国青年代表挨拶 *記念品交換、写真撮影
	11:30	昼食 地域視察（和歌山城→和歌山自然博物館→マリーナシティ）
	18:00～20:00	送別会 *県代表挨拶 *実行委員会代表挨拶 *ドミニカ共和国・オーストリア代表挨拶 *パフォーマンス
10月5日（水）	8:30	富山県へ移動



私にとって今回は初めての外国青年招へい事業の受入れでした。何事も初めて尽くして五里霧中の中、実行委員会で協議を重ね、3点にポイントを絞って会議を重ねてまいりました。まず、外国青年と日本青年がどうすれば交流を深められるか、そして次に私の住む地域の歴史や文化を外国青年に理解してもらえるか、最後はこのような交流活動を今後も継続し発展させていくための地域の人材の発掘と育成の3点でした。

交流を深めるためにフランクに話し合える環境づくりということで、ディスカッション・プログラムや交流会でのしつらえを検討し、会話をスムーズにし、心を和らげるティータイムと飲食物の提供、そして交流しやすい会場設営についての配慮も行い、コンパクトな会場を有効に使用することによりお互いの距離も近づき会話もしやすくなったと思います。

2点目については、和歌山らしさを強調し、歴史と文化、そして産業に触れてもらう機会の提供でした。ディスカッション・プログラムや地域視察の中で私たちの先祖が培い、育ててきた文化や産業、歴史をいかに伝え、理解してもらい、その中で私たちの暮らしを

見てもらい、そしてそのことが彼らの目にはどう写ったのかを知ることも自らを見直すという意味も込めて大事なことだと思っています。当初は、古民家に宿泊し、地域文化に触れる計画でしたが、キャパシティの関係で断念せざるを得なかったことが心残りですが、今後は課題を解決し、より深い日本理解のために再度受入れの取組も考えたいと思うところです。

最後に人材の育成と発掘については、このような交流事業を通じて「地域と人づくり」を推進するということです。ディスカッション・プログラムには多くの地域青年の参加希望があり、その中から次世代を担う若者が育っていくものと確信しています。今回もすばらしい人材の発掘もでき、外国青年との交流も進んだと感じています。

私たちのつたない和歌山プログラムの取組でしたが、私たちの地域にとって国際交流とそれを推進する人材の育成ができたことは意義深いことだと思います。今後もこのプログラムがますます活発に、そして意義深いものとして継続していくことを祈念しています。

ディスカッション参加青年 織田 鉄平

この度私はオーストリア、ドミニカ共和国の方と交流するプログラムに参加しました。短い時間ではありましたが、お互いの文化の違いを話し合ったり、茶道や紙すきなどを体験したり日本で生まれ育った私でも初めての経験で面白かったです。特に印象に残ったのは二日目の清水という地区でのディスカッションです。ここは山椒や温泉や、あらぎ島と呼ばれる棚田がある自然がきれいな町です。しかし、この地区も高齢化が進み、あと10年で廃村になると言われている地区でもあります。実は、私は最近有田川町に引っ越してきて、清水へ初めて行きました。私の地元は大都会というわけではないですが、人口はこの町より14倍もあり、今も人が増えています。

ディスカッションでは、外国青年も交えて今後どうしたら移住者や国内外観光客が増えるのかということ話し合いました。大学を誘致する、SNSで魅力を拡散する、トレッキングコースを整備する、観光案内所を作る等様々なアイデアが出ました。SNSやネット

での発信は実際暮らしている方がお年寄りばかりのため難しいかもしれません。外国人観光客に発信するには日本語、英語、その他の言語も使えなければなりません。大学や企業誘致も実際問題難しいでしょう。私はまずは観光案内所から整備するというのが一番良い意見だと思いました。私が以前住んでいたニュージーランドでは、この清水よりも小さい集落にさえも観光案内所がありました。その村の歴史や、ちょっとした観光スポットを紹介したりお土産を販売したりと小さいながらも楽しめるようになっていました。私が過去に旅をしてきたいくつかの国でも観光案内所が各町にありました。ドミニカ共和国、オーストリアにもあるのか聞いてみたかったです。

豊かな大自然の気さくなオーストリア人、細かなことは気にしないフレンドリーなドミニカ共和国人。彼らには是非国へ帰って、東京、大阪、京都みたいにメジャーな場所じゃない所にも魅力はいっぱいあるんだよと伝えてほしいと思います。

ドミニカ共和国参加青年 ミサエル・アドリアーノ・キロズ・ペレス

和歌山県の滞在は短かったものの、学びが多く意義深いものでした。茶道は大変興味深い体験でした。この儀式が世代を超えてどのように受け継がれてきたかを知り、大変美しく調和のとれた茶道の作法を見ることができました。「一期一会」の精神に重みを感じながら瞑想し、今を大切に生きることについて考えることができました。

鈴木先生と工房わらしのスタッフにお会いできて光栄でした。鈴木先生から伝統工芸である保田紙の手すきとうちわ作りを丁寧に教えていただきました。私たちはこの創作活動を通じて集中力という新たな観点を学びました。先生のお話ではこの技術を習得するのに10年ほどかかるそうです。私たちは苦心して作ったこの繊細な紙を破らないように細心の注意を払いました。うちわの仕上げには、残った和紙を思い思いの形に切り、飾り付けました。この伝統工芸に参加したことを大変誇らしく思いました。それはとても精神的な作業でしたし、鈴木先生は聡明な方でした。私たちは

この経験を受け入れ、共有したいと思います。今、手作りのうちわでカリブ海の暑さをしのぎつつ、和歌山に思いをはせています。

プログラムでは二つのお寺を訪問する素晴らしい機会がありました。2キロの山歩きで大変リラックスし、荘厳で落ち着いた雰囲気の高野山が、私たちを無の境地に導いてくれました。また、金剛峯寺の壁画に描かれた数々の歴史を見て、私たちはこの地を訪れ、その偉大さを称えるだけではなく、僧侶になりたいと思わずにいられませんでした。

また、温泉に行く機会も頂きました。これはすてきな経験でした。温泉はゆったりとリラックスでき、健康促進の効果があります。私たちドミニカ共和国人にとって入浴マナーは馴染みのないものでしたが、温泉は健康の回復に効果があり、心身がすっきりと清潔になります。温泉体験は日本プログラムでのハイライトの一つです。

オーストリア参加青年 ヴェレーナ・クリスティーナ・コーラー、アズレム・トゥラン

和歌山県で私たちが最初に印象的だと思ったのは、圧倒的な自然と静かな風景でした。それは私たちが東京で目にしたものとはあまりにも対照的でした。とても美しい森林に私たちは文字通り息をのみました。

コース別の課題別視察では皆、素晴らしい経験をしました。例えば、文化コースでは伝統的な「茶道」を体験し、一生の思い出になりました。ホストファミリーが大変親切で友好的だったので、ホームステイ体験そのものが非常に和やかなものになりました。ホストファミリーにはじっくりと私たちの質問に答えていただき、この美しい伝統について様々な事実を学ぶことができました。また、図書館やみかん園、風力発電施設の訪問は大変有意義でした。

また、赤玉食堂での歓迎交流会も印象的でした。様々な伝統が合流した楽しい夕べでした。ドミニカ共和国団とオーストリア団で文化パフォーマンスを披露し、素晴らしいひと時を過ごしました。でも私たちが本当に驚いたのは、参加青年の一人に獅子舞が近づいてきたことです。日本人もそれを初めて見ました。

有田川町滞在のハイライトは、すてきなコテージで

した。私たちは伝統的なお風呂である「温泉」を体験しました。翌日は伝統的な紙すきに挑戦しました。紙作りの様子を見学し、実際にうちわ作りを体験する機会も頂きました。

このような素晴らしい冒険を通じて私たちは和歌山にとっても良い印象を抱いたので、観光業が長年停滞しているというお話には大変驚きました。和歌山の良い印象を自国に持ち帰り、人々に伝えることで、観光業が再び盛んになれば幸いです。

